

平成 21 年度国立大学法人等施設整備の事業評価・事業選定について

1. 基本的事項

国立大学法人等施設整備事業の事業評価・事業選定については、一層の重点化・効率化及び透明性・客観性を確保する観点から、個別事業における事業の必要性・緊急性等はもとより、システム改革や事後評価の反映状況など各法人の取り組みを適正に評価できる競争性の高い事業評価・事業選定を実施するとともに、当該法人に対し評価結果を伝達し、システム改革などの更なる推進に資するものとする。

2. 対象事業

各法人から要求があった重点事業の中から、当該年度の整備方針に合致する全ての事業を対象とする。

なお、継続事業については、すでに事業評価を行っていることから対象とはせず、事業費等についての事務審査のみを行うこととする。

3. 事業評価、事業選定

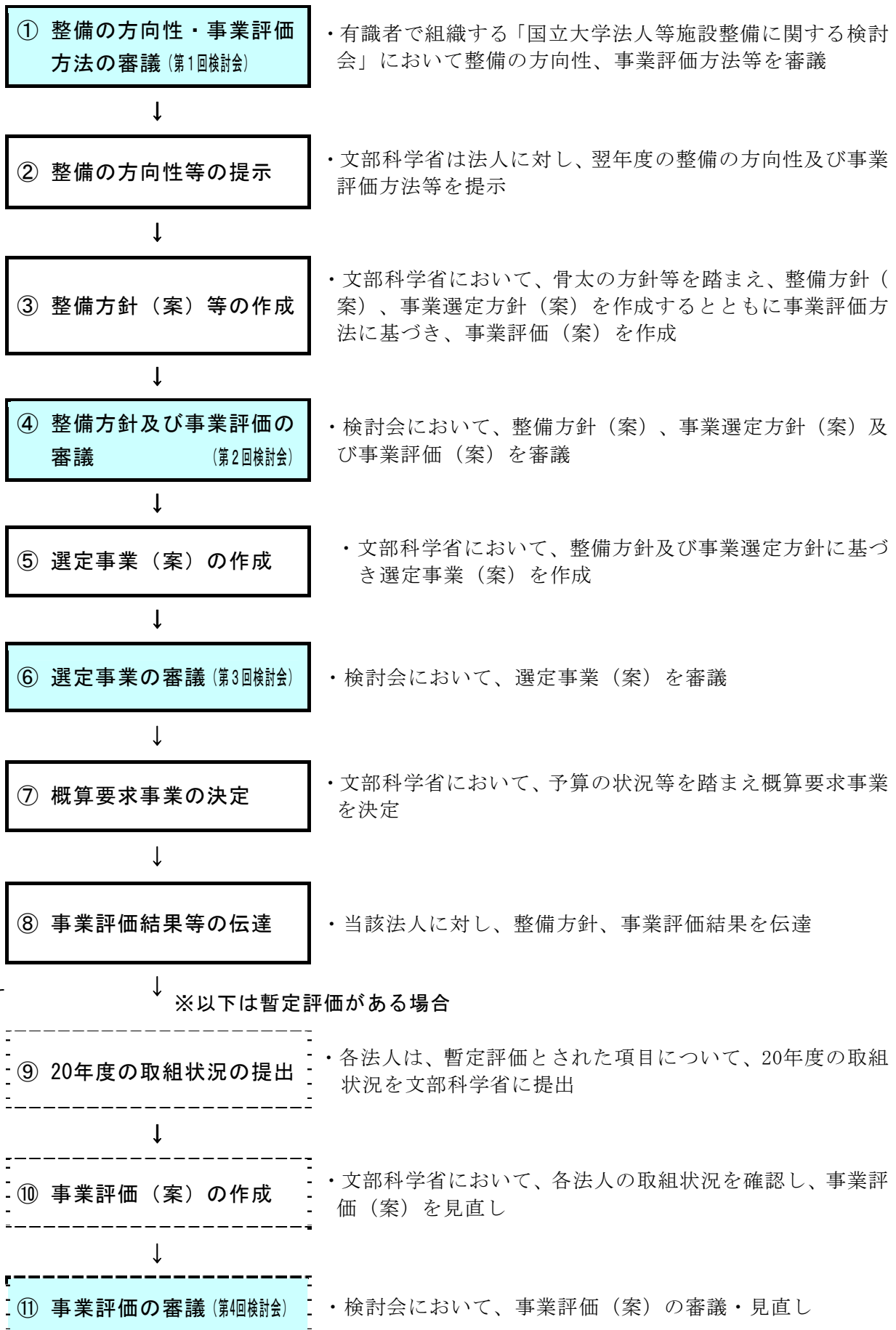
事業評価については、有識者で組織する「国立大学法人等施設整備に関する検討会」（以下「検討会」という。）において、事業評価方法（評価項目、評価基準）を審議し、これに基づき全学的な取組及び個別事業に関する評価を行う。なお、全学的取組の評価において、システム改革等の取組を促すため、平成 21 年度の取組予定も含め評価（暫定評価）する場合には、11 月末までに取組状況を確認した上で評価を確定する。

事業選定については、「検討会」において「第 2 次国立大学等施設緊急整備 5 か年計画」及び国の各種関連施策等を踏まえた整備方針（事業選定方針を含む）を審議し、最終的には予算の状況等を踏まえ、文部科学省において概算要求事業を決定する。

■事業評価・・・各評価項目（耐震補強を主とした事業については 3 項目、基幹・環境整備事業については 5 項目、その他の事業はすべての項目）について 3 段階（a, b, c）評価を行い、その結果を基に総合評価（S, A, B, C）を行う。

■事業選定・・・整備方針（事業選定方針を含む）に合致する事業で、予算の状況等を踏まえ決定する。

○ 事業評価の流れ



事業評価項目等の見直しについて

全学的な取組状況の評価項目

○システム改革の取組状況

- ・「施設の維持管理に関する取組状況」の中で評価していた「省エネルギー対策に関する取組状況」を評価項目とした。（＜5＞項目から＜6＞項目へ）

○暫定評価

- ・大学のシステム改革等の取組状況を促すため、平成20年度の取組状況も踏まえ評価する暫定評価を継続する。（評価確定時（11月下旬）までに取組状況を確認）

個別事業に関する評価項目

○教育・研究活動への波及効果

- ・「教育・研究の活性化状況」を「教育・研究活動への波及効果」と項目名称を変更し、教育・研究を実施する上で支障となっている事項、当該事業を実施することより実施可能となる教育・研究、更に、今後期待できる教育・研究成果について、具体的に記入するよう変更した。

○コスト縮減・環境対策への取組状況

- ・当該事業における環境対策への取組状況を評価項目として追加した。

その他

○提出資料の見直し

- ・「システム改革の取組状況<1><2>」に関する関連データとして施設利用状況調査の実施状況、使用面積の再配分及び講義室の稼働状況等の調書を追加した。
- ・実施事業の事後評価シートにできるだけ具体的な数値等を用いて記入するよう変更した。

○ 全学的な取組状況の評価項目

	評価項目	評価		
		a	b	c
全学的な取組状況の評価	1. システム改革の取組状況			
	<1>施設マネジメントに関する全学的な体制	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<2>既存スペースの有効活用に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<3>施設の維持管理に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<4>省エネルギー対策に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<5>新たな整備手法に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<6>適正な施設整備執行に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分
2. 実施事業の事後評価 ・事後評価の実施体制 ・過去に整備された施設（3,5年前）について、当初の目的に沿った利用等がなされているか ・教育研究に期待された効果を把握している	当初目的に沿って利用され、かつ、効果を把握している	当初目的に沿った利用がなされている	当初目的に沿った利用がなされていない	

○ 個別事業に関する評価項目

	評価項目	評価		
		a	b	c
個別事業に関する評価	3. 施設整備計画との整合 ・教育研究活動の展開や施設マネジメント等を踏まえた施設整備計画に基づく適切な事業計画となっているか	適切な事業計画となっている	概ね適切な事業計画となっている	計画に基づいていない
	4. 事業の必要性・緊急性 ・建物の老朽化や耐震性が著しく低く、または基幹設備の不備・老朽化が著しく早急な対応が必要か ・組織設置、定員増、設備設置等に伴い狭隘化が著しいか	必要性・緊急性が高い	必要性・緊急性がある	必要性・緊急性は低い
	5. 教育・研究への波及効果 ・今後、教育研究成果が期待でき又は一層の活性化が見込まれるか	期待される	概ね期待される	あまり期待できない又は不明確
	6. コスト縮減・環境対策への取組状況 ・効率的かつ効果的な事業内容、事業費となっているか ・環境に配慮した取組を行っているか ・コスト縮減に向けた取組を行っているか	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確

※ 附属病院施設については、償還計画等を併せて評価する。

※ 耐震補強を主とした事業については、3,4,6の3項目、基幹・環境整備事業については、1<3><4>,3,4,6の5項目について評価を行う。

総合評価

総合評価	摘要		
	右記以外の対象事業	耐震補強を主とした事業※	基幹・環境整備事業
S	全てがa	(3,4,6)がa	(1<3><4>,3,4,6)がa
A	評価項目(1<1>~<6>,4,5)がaで、その他がa又はb	評価項目(4)がaで、その他がa又はb	評価項目(4)がaで、その他がa又はb
B	評価項目(1<1>~<6>,4,5)においてbを有する	評価項目(4)においてbを有する	評価項目(4)においてbを有する
C	いずれかの項目においてcを有する	(3,4,6)いずれかの項目においてcを有する	(1<3><4>,3,4,6)いずれかの項目においてcを有する

※ 耐震補強を主とした事業：緊急に安全性を確保するため行う耐震補強にあたり、効率的な事業執行の観点から、教育研究に直接的関係はないものの当該建物を供用するために必要となる最低限度の改修（バリアフリー、外部改修のみ）を含む事業

○ 全学的な取組状況の評価基準

	評価項目	評価		
		a	b	c
全学的な取組状況の評価の具体的視点	1. システム改革の取組状況			
	<1>施設マネジメントに関する全学的な体制	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	施設マネジメント委員会等の活動が適切に実施されているか	視点①が「a」	視点①が「b」	視点①が「c」
	視点 ①施設マネジメントに関する全学的な体制	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<2>既存スペースの有効活用に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	取組が不十分
	既存スペースを有効活用しているか	視点①～②全てが「a」	視点①～②が「a」又は「b」	視点①～②のいずれかに「c」を有す
	視点※1 ①既存スペースの有効活用	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	②共同利用スペースの確保	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<3>施設の維持管理に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	施設の維持管理を適切に実施しているか	視点①が「a」	視点①が「b」	視点①が「c」
	視点 ①維持管理	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<4>省エネルギー対策に関する取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	省エネルギー対策に関する取組が適切に実施されているか	視点①が「a」	視点①が「b」	視点①が「c」
	視点 ①省エネルギー対策	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<5>新たな整備手法の取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	新たな整備手法の活用や検討を積極的に行っているか	視点①、②全てが「a」	視点①、②が「a」又は「b」	視点①、②のいずれかに「c」を有す
	視点 ①過去3年間の整備実績（H17-19年度）	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	②今後の実施予定及び検討方針	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確
	<6>適正な施設整備執行への取組状況	積極的な取組が行われている	概ね適切な取組が行われている	取組が不十分
	適正な施設整備執行への取組が積極的に行われているか	視点①～③全てが「a」	視点①～③が「a」又は「b」	視点①～③のいずれかに「c」を有す
	視点 ①入札及び契約に関する情報公開等の実施状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分
②一般競争入札方式、総合評価方式及び工事成績評定の実施状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分	
③電子入札の実施状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分	
2. 実施事業の事後評価	当初目的に沿って利用され、かつ、効果を把握している	当初目的に沿った利用がなされている	当初目的に沿った利用がなされていない	
当初の目的に沿って利用され、効果現れているか	(1)～(3)が「a」	視点①、②が「a」又は「b」	(1)～(3)のいずれかに「c」を有す	
視点 ①事後評価の実施体制	評価体制が整えられ、適切に実施している	概ね適切な評価が実施されている	適切に評価が行われている	
②過去に整備された施設の利用状況（H15、17年度）と教育研究に期待された効果	当初の目的に沿った利用が行われ、期待された効果を把握している	当初の目的に沿った利用がなされている	目的に沿った利用がなされていない	

※1 P（計画・目標等の策定）、D（管理・運営）、A（評価）、C（次の計画・目標への反映）サイクルの観点に基づき評価する。

○ 個別事業に関する評価基準

評価項目		評価		
		a	b	c
個別事業に関する評価の 具体的視点	3. 施設整備計画との整合	適切な事業計画となっている	概ね適切な事業計画となっている	計画に基づいていない
	(1) 教育研究活動の展開や施設マネジメント等を踏 まえた施設整備計画に基づく事業計画となってい るか	視点①～③が「a」	視点①～③が「a」又は 「b」	視点①～③いずれかに 「c」を有す
	①各大学の中期計画等に基づく教育研究活動の 展開との整合性	教育研究の展開に整合して いる	概ね整合している	不整合
	②「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画 」等を踏まえた経営的視点に立った事業要求の 妥当性（代替策等の検討状況）	十分な検討がなされ妥当で ある	概ね妥当である	検討不十分
	③「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」 等を踏まえた事業の質・規模の妥当性	適切な水準、規模である	水準、規模は満たされている	検討不十分
	4. 事業の必要性・緊急性	必要性・緊急性が高い	必要性・緊急性がある	必要性・緊急性は低い
	[老朽改善事業] (1) 建物の老朽化や耐震性が著しく低く、または基幹 設備の不備・老朽化が著しく早急な対応が必要か	視点①～③の該当箇所が 「a」 (老朽狭隘複合事業の場合、(1)、(2)それぞ れの該当箇所が「a」)	視点①～③の該当箇所が 「b」 (老朽狭隘複合事業の場合、(1)、(2)それぞ れの該当箇所が「a」又は「b」)	視点①～③の該当箇所が 「c」 (老朽狭隘複合事業の場合、(1)、(2)それぞ れの該当箇所が「c」を有す)
	①耐震性能 ※診断次数は二次診断以上であること	耐震性能が著しく劣る	耐震性能が劣る	左記以外
	②基幹設備の老朽度	老朽化が著しい	老朽化が認められる	左記以外
	③安全安心の確保の必要性等 (①、②以外で早急な対応の必要性・緊急性)	人命・事故への影響や教育 研究の停止 等	維持管理、教育研究への 影響有 等	左記以外
	[狭隘解消事業] (2) 組織設置、定員増、設備設置等に伴い狭隘化が著 しいか	視点④が「a」	視点④が「b」	視点④が「c」
	④狭隘化の状況 人材養成—該当面積区分の整備率 卓越—該当面積区分の整備率 + 特殊な施設、大型設備の設置等の状況 ※附属病院は各事業の進捗状況等から判断する	狭隘が著しい	狭隘である	左記以外
	5. 教育・研究への波及効果	期待される	概ね期待される	あまり期待できない又は不明確
	(1) 今後、教育研究成果が期待でき又は一層の活性化 が見込まれるか	視点①が「a」	視点①が「b」	視点①が「c」
	①当該事業において見込まれる具体的成果・ 効果	期待される	概ね期待される	あまり期待できない、又は 不明確
6. コスト縮減・環境対策への取組状況	積極的な取組が行われている	取組が行われている	不十分・不明確	
(1) 効率的かつ効果的な事業内容、事業費となってい るか	視点①～③が「a」	視点①②④が「a」又は 「b」	視点①～④いずれかに 「c」を有す	
①目的達成に対する事業費の投資具合 (華美過大な事業計画ではない、過度な事業費 負担ではない等)	妥当である	概ね妥当である	不十分	
②総合単価 (特殊施設の場合は、個別に判断)	妥当である	概ね妥当である	妥当でない	
(2) 環境に配慮した取組を行っているか				
③当該事業における環境への配慮	積極的に行っている		検討不十分	
(3) コスト縮減に向けた取組を行っているか				
④過去5年間における類似事業の具体的コスト 縮減内容	積極的な取組が行われ、か つ効果が認められる	積極的な取組が行われている	不十分又は不明確	
⑤当該事業における取組 【附加的視点】 (コスト縮減の具体的取組内容等)	積極的な取組が認められる	※⑤が「a」の場合、④が「b」の場合のみプラス評価と する。(aab→aaa、aac→aac)		